

報道発表資料
平成26年11月19日
国立国会図書館
東北大学災害科学国際研究所

平成26年度東日本大震災アーカイブシンポジウム ー4年目の震災アーカイブの現状と 今後の未来（世界）へ繋ぐためにー 開催のお知らせ

国立国会図書館と東北大学災害科学国際研究所は、東日本大震災に関する音声・動画、写真、ウェブ情報等を収集・保存・提供しています。東日本大震災から4年目に、両機関は、震災記録の被災地内外における利活用の事例と課題を示し、今後の未来、そして世界へどのように震災記録や教訓を繋げていくかについて議論を行うために、平成27年1月11日（日）に「東日本大震災アーカイブシンポジウム」を東北大学で開催いたします。

デジタルアーカイブを専門とする筑波大学の杉本重雄教授が基調講演するほか、震災記録を収集する8つの機関が、各アーカイブの取組・活動について事例報告します。また、記録の利活用や課題についてパネルディスカッションも予定しています。

○日時及び会場

日時：平成27年1月11日（日） 13時00分から17時00分まで

会場：東北大学災害科学国際研究所棟1階多目的ホール

（宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉468-1）

○参加及び参加申込み

(1) 定員：200名

(2) 参加費：無料

(3) 参加申込み：参加を御希望の方は、以下のURLのシンポジウム案内にある申込みフォームからお申込みください。

<http://shinrokuden.irides.tohoku.ac.jp>（みちのく震録伝）

受付は先着順とし、定員に達した時点で終了します。

問い合わせ先：

東北大学災害科学国際研究所情報管理・社会連携部門災害アーカイブ研究分野 小野, 柴山

電話番号：022(752) 2099 E-mail アドレス：archiveforum@irides.tohoku.ac.jp

○プログラム

●基調講演

「デジタルアーカイブへの期待一時を超えてコミュニティをつなぐ」

杉本重雄（筑波大学図書館情報メディア系教授図書館情報メディア研究科研究科長）

●事例報告

「東日本大震災とデジタルアーカイブー宮城県取組から」

熊谷慎一郎（宮城県図書館司書）

「未来への減災メッセージ～「たがじょう見聞憶」が伝えたいこと～」

小野史典（多賀城市総務部副理事・地域コミュニティ課長）

「赤十字原子力災害情報センターデジタルアーカイブ」

志波一顕（日本赤十字社事業局救護・福祉部災害対策企画室

赤十字原子力災害情報センター参事兼東日本大震災復興支援推進本部参事）

「みちのく震録伝の3年間のあゆみと今後の展望について」

柴山明寛（東北大学災害科学国際研究所准教授）

「東松島市の取組み事例」

加藤孔敬（東松島市図書館副館長）

「市民ひとりひとりがセンサーになる震災アーカイブ」

佐藤正実（NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台副理事）

「震災アーカイブの生涯学習施設的利活用」

北野央（せんだいメディアテーク企画・活動支援室主事）

「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」」

諏訪康子（国立国会図書館電子情報部主任司書）

●パネルディスカッション

「4年目の震災アーカイブの現状と今後の未来（世界）へ繋ぐために」

上記基調講演者及び事例報告者



(参考)

たがじょう見聞憶

<http://tagajo.irides.tohoku.ac.jp>



宮城県多賀城市で起こった東日本大震災の記録を収集、保管し、体系的に整理したデジタルデータベース。震災の記録を未来へ伝え、今後の防災・減災に役立てることができるように公開。

赤十字原子力災害情報センターデジタルアーカイブ

<http://ndrc.jrc.or.jp/>



福島第一原子力発電所事故に対する日本赤十字社の活動を中心に、原子力災害とそれに対応する赤十字活動に関する資料を保存・公開。

ICT 地域の絆保存プロジェクト「東日本大震災を語り継ぐ」(東松島市図書館)

<http://www.lib-city-hm.jp/lib/2012ICT/shinsai2012.html>

宮城県東松島市図書館が、東松島市の東日本大震災に関する写真・映像・会報・文集などの発行物等を収集・公開するプロジェクト。



NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台

<http://www.20thcas.or.jp/>

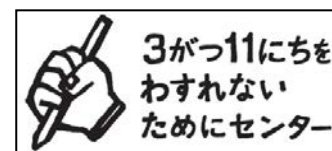


古き仙台はどのような街だったのかを市民に伝え、過去とのつながりを実感できるようアーカイブ(記録)化し、後世に引き継ぐことを目的に設立。3.11 震災後は、市民から震災画像を募り HP を立ち上げる活動も開始。2012 年「3.11 キヨクのキヨク」発刊、全国 3.11 パネル展、3.11 定点撮影、3.11 ツアーなど震災アーカイブ活動中。

3 がつ 11 にちをわすれないためにセンター

(せんだいメディアテーク)

<http://recorder311.smt.jp/>



東日本大震災後の 2011 年 5 月 3 日に「せんだいメディアテーク」に開設される。市民、専門家、スタッフが協働し、復旧・復興のプロセスを個々人の視点で記録、発信していくプラットフォームとして、映像、写真、音声、テキストなどさまざまなメディアの活用を通じ、情報共有、復興推進に努めるとともに、収録されたデータを「震災の記録・市民協働アーカイブ」として記録保存している。



国立国会図書館東日本大震災アーカイブ (愛称：ひなぎく)

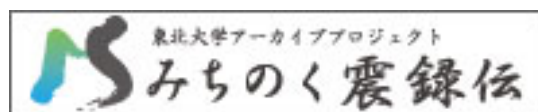
<http://kn.ndl.go.jp/>



国立国会図書館が運営する、東日本大震災に関するあらゆる記録・教訓を次の世代へ伝えることを目的としたポータルサイト。被災地の復旧・復興事業や、今後の防災・減災対策に役立てられるよう、公的機関、民間団体、報道機関等による記録・報告書や大学、学会、研究機関による学術研究の成果などを包括的に検索できる。

みちのく震録伝

<http://shinrokuden.irides.tohoku.ac.jp/>



東北大学災害科学国際研究所が産官学民の約 120 機関と連携して、東日本大震災に関するあらゆる記憶、記録、事例、知見を収集し、震災の実態解明および被災地支援、国内外への防災・減災対策への展開、国内外や未来に共有するプロジェクト。約 10 万点の震災記録を公開している。